

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	スリランカの内戦終了後、トリンコマレ県内の再定住地域で復興されつつある主要産業（農業・酪農業）において、農民が組合を通して自立的に生産から販売に携わる仕組みを確立することにより、帰還民の生計向上を支援し、地域経済の持続的発展に寄与する。
(2) 事業内容	<p>(ア) <u>精米所運営による稲作農家支援</u></p> <p>カンタレ郡ワネラ村落においてコミュニティと話し合い、現地政府との合意のもとで、精米所の建設地を決定した。現在、施設の建設が11月の完成に向けて計画通り行われており、2015年2月に精米所の運営を開始する予定である。</p> <p>また精米所を運営するにあたり、対象地域に新たに協同組合を設立し、組合理事9名を選出したのち、スリランカ政府保健省管轄の組合局にて登録を行った。その組合理事を中心に組合への勧誘を行い、現在の組合員数は120名である。更に精米所運営に関わっていく予定の組合員を対象に、精米所運営のためのビジネス研修（計5科目）¹を行っており、これまでにビジネス計画とマーケティングの研修を完了した。</p> <p>(イ) <u>牛乳回収センターおよび直売所運営による酪農家支援</u></p> <p>ムトゥール郡チェナイユール村落においてコミュニティと話し合い、現地政府との合意のもと、牛乳回収センターおよび直売所の建設地を決定した。建設は計画通り、8月末にほぼ完了している。付加価値製品の製造機器を施設内に設置し、組合員による運営準備が整い次第、運営を開始する。</p> <p>また、センターと直売所の運営に向けて、対象地域に協同組合を設立し、9名の組合理事を選出したのち、組合局にて登録を行った。その組合理事を中心に組合への勧誘を行い、現在の組合員数は47名である。更に運営に関わっていく予定の組合員を対象にビジネス研修（計6科目）²を行っており、これまでにビジネス計画、マーケティング、リーダーシップ、会計の研修、牛乳回収センターおよび直売所運営を完了した。</p>

¹ ビジネス研修の科目は以下の通り。1) ビジネス計画（5日間）、2) マーケティング（2日間）、3) 会計（1.5日間）、4) リーダーシップ（1日間）、5) 精米所運営（2.5日間）。

² ビジネス研修の科目は以下の通り。1) ビジネス計画（5日間）、2) マーケティング（2日間）、3) 会計（1.5日間）、4) リーダーシップ（1日間）、5) 牛乳回収センターおよび直売所運営（2.5日間）、6) 付加価値製品の製造。

(3) 達成された効果

(ア) 精米所運営による稲作農家支援

組合による稲の回収および精米はマハ期(2014年10月頃から2015年1月頃)の収穫後(2015年2月)になるため、期待される効果の測定はその収穫を待つ必要がある。

精米所運営のためのビジネス研修はビジネス計画とマーケティングの研修が終了しており、これまでに延べ38名が研修に参加した。また、上記2科目の研修終了後に、現時点での組合のビジネスプランのドラフトが作成され、組合理事によるプレゼンテーションが行われた。精米所の始動に向け、販売先の決定等に基づきプランを改訂していくよう、引き続き支援する。

研修に参加した組合員からは、「これまでは単にコメの収穫量を増やすことで、収入を増やそうと集中してきたが、研修で新たに生産過程の支出について学んだことで、費用効果を考慮した上での支出を計画したり、支出を抑えることで利益を得るといった別の面に気付くことができた」、また「これまで仲買人の言い値でコメを売り渡していたが、研修中に生産コストを考慮した売り値の計算方法やコメを加工して付加価値をつけたコメ商品の価格設定方法等を学んだので、精米所運営に際してはそれらの点も注意して、バイヤーと販売価格や販売条件について交渉を行っていききたい」という意欲を聞き取っている。

(イ) 牛乳回収センターおよび直売所運営による酪農家支援

組合による牛乳の回収および販売開始は9月頃を予定して準備中であり、期待される効果の測定はその開始を待つ必要がある。

牛乳回収センター／直売所運営のためのビジネス研修は付加価値製品の製造の研修を除き全ての研修(ビジネス計画、マーケティング、リーダーシップ、会計、牛乳回収センターおよび直売所運営、)が終了しており、これまでに延べ36名が研修に参加した。施設の運営に先立ち、ビジネス研修を受講したことにより、家庭で日々の家計簿をつけ始めた結果、無駄遣いが減ったり、計画的な支出ができるようになったりしたという声を聞いている。また、以前に会計について学んだがそれを活用する機会がなかったため、今回の研修で改めて学んだことを今後の施設運営に活かしたいという意見を組合員から聞き取っている。

加えて、当施設を建設しているムトゥール郡は主に少数民族のタミル人・ムスリム人地域であり、津波や紛争による外部からの支援を受益してきた経緯があることから、「援助慣れ」や「支援への依存」という批判を受けることがある。一方、現行事業ではモニタリングの中で、組合が牛乳回収センターおよび直売所を主体的に運営していく責任があることを常に強調している。こうした中で、組合理事や研修参加者は「組合の組織力強化の重要性」に自ら気付き、組合の基盤となる組合員を増加するため、個別訪問による勧誘を意欲的に行うようになった。また組合理事も施設運営を行っていくのは自分たちであるとの認識を持ち、初期運営資金の獲得に努力するなど、住民のオーナーシップ意識の向上が見られる。

	<p>さらに、両コミュニティとも若者のビジネス研修への参加が見られ、次世代の組合運営を担う人材育成にも貢献している。今後も引き続き組合のオーナーシップ意識を高めていくとともに、彼らが実際に施設運営という経験を経て、より持続可能で収益を考慮した加工・販売活動を行うことができるよう、モニタリングやビジネス・カウンセリングを実施する。</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>(ア) <u>精米所運営による稲作農家支援</u> 精米所建設の土地選定が予定よりも長引き、建設開始が遅れたが、弊団体エンジニアによる調整と建設業者の努力により、現在は工期の遅れを取り戻し、予定通りに11月末までに建設が完了する予定である。ビジネス研修は残りのリーダーシップ、会計、及び精米所運営の研修を実施し、2015年2月の精米所運営開始までに、組合員により必要な運営準備が行われる予定である。</p> <p>(イ) <u>牛乳回収センターおよび直売所運営による酪農家支援</u> 牛乳回収センターおよび直売所の建設が予定通りに完了しており、販売先や牛乳回収ルート、運営スタッフの決定等、組合による運営準備が整い次第、牛乳の回収及び販売を開始する。また、併設する直売所ではホットミルクやミルクティ、アイスクリームなどの販売を行っていく予定であり、そのための付加価値製品の製造研修を関係者に実施する。更に、運営開始後に複数回のビジネス改善コンサルティングを行う見込みである。</p>